

研究業績等に関する事項

番号	研究活動項目	補足	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	編著・著者名等*	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
1	論文数(欧文)(紀要論文を除く)	発表した欧文論文(紀要論文を除く)	ELT:The Case of Japan Chapter7 Between a Rock and a Hard Place:Teaching English Reading in Japan	共著		2004年	Kluwer/Lincom	日本の英語教育の現状について紹介することを目的とする専門書の第7章で、中学・高校・大学レベルでの特にリーディングの指導について執筆した。(校了)(Andy Barfield,Robert Betts)
			Discourse Management:Its Implications for the Teaching of Sociolinguistic Competence in the Foreign Language Classroom	単著		1996年1月	茨城大学大学院修士論文	英語学習者の社会言語的意識と外国語コミュニケーションに活発に参加する態度を育成することを目指し、談話を自らマネジメントする能力を養う英語教育を提唱することを目的とし研究を行った。この談話マネジメントの能力は学習者が口頭によるコミュニケーションを行う時に内在する困難を乗り越えるのに大きく貢献すると考える。
2	論文数(和文)(紀要論文を除く)	発表した和文論文(紀要論文を除く)						
3	著書数(欧文)	刊行した欧文の著書						
4	著書数(和文)	刊行した和文の著書	「2. 学校における「評価」の現状」	共著	ELPA Booklet 6 vol. 1	2008年	ELPA	担当箇所において「国際語としての英語」がキーとなる学校での英語教育での評価を行う際、社会言語学的能力を評価に組み入れる必要性を論じた。
5	紀要論文数	掲載された学内外の紀要	適切な英語使用と談話展開	単著		1996年3月	『関東甲信越英語教育学会研究紀要』第10号	本論は、Canale(1983)が提唱するコミュニケーション能力の4要素の中でも、社会言語学的能力と談話的能力の関係に焦点を当て、会話例と談話のtranscriptsを検討し、英語を外国語として使用する日本人にとっての適切な英語使用と談話を能動的に展開させることの重要性を議論するものである。
			談話展開に関する一考察—社会言語学的観点からの日英比較—	単著		1997年3月	『IRICE PLAZA』第7号	本稿では英語母国語話者と日本人英語学習者を対象に実施したテスト形式のアンケート調査の結果を談話展開への社会的地位の影響、依頼や招待を拒否・辞退するときの謝罪、などの観点から分析し、報告する。このアンケートは、与えられた条件下で英語母国語話者と日本人英語学習者がどのように談話を展開させるかについて差異や共通点を調査し、日本の英語教育における社会言語学的能力の談話レベルでの育成に役立てることを目的とし考案、実施した。

			Communicative Competence in English Language Teaching	共著		1998年3月	『茨城大学教育学部教育研究所紀要』第29号	We will propose a perspective of communicative competence in English language teaching. The framework presented here is two-fold: Linguistic competence in accordance with the theoretical framework of four components of communicative competence in Canale(1983) which will be interpreted as linguistic strategy, and communicative sensitivity as an attitudinal aspect in communication. In order to examine these two aspects, the teaching situation will be restricted to English language teaching in Japan. (Michiyo Hirano)
			Reflection Diary: It's Potential in a Foreign Language Classroom	単著		2002年3月	常磐国際紀要	The purpose of this paper is to investigate the potential of diary entry in a foreign language classroom. The role of diary entry in foreign language teaching will be introduced at first. Then the writer will present how she implemented diary entry in her class and discuss the potential of diary entry with students' voices about writing learning diary. Diary entry is practical to raise students' awareness of learning. Also the diary entry has a function of communication between students and their teacher in order to create good classroom climate.
			Adopting Academic English into the Curriculum of College of Applied International Studies at Tokiwa University	単著		2004年3月	常磐国際紀要	This paper considers the teaching of academic English at university level. Academic English tends to be thought of as a higher skill of English acquired basic skills useful have been developed. However, in Japan, people rarely use English in their daily lives unless forced to use it in the work place. This means formal English is required they have to use it. Academic English offers the opportunity to learn such formal English. A better understanding of social necessity to academic English and cognitive grammar teaching and adequate teacher training will contribute to accelerate teaching academic English.
			A Short-term Overseas Language Program: What Students Gain	単著		2006年3月	常磐国際紀要 第10号 Pp113-123	海外研修参加者が1ヶ月の米滞在で何をすることができるのかについて、英語能力テストやエゴグラムテストを用いて探求した。90%以上の学生が英語の運用力を何らかの形で伸ばしており、約30%の学生が「前向きになった」「一人で自身をもって行動できるようになった」など、行動面での明確な改善を意識できるという結果が得られた。

			『発音訓練が英語学習者にもたらす変化：明瞭性 (Intelligibility) の高い英語発音を目指した授業から』	共著		2017年3月	常磐国際 紀要 第21号	明瞭性 (Intelligibility) を高めることを目的とした英語発音訓練の授業で、発音訓練が学生にもたらす変化と発音訓練を実践する上での課題を明らかにすることを目的として行った研究である。英語専攻の大学生を履修対象者とした発音訓練の授業で録音した課題文音読のアメリカ英語母語話者による主観的評価、アンケート、自主練習で学生が記入した発音練習記録表を用い、発音訓練を通して学生に起こる変化について調査した。 著者：渡邊真由美・ケビン・マクマナス
			Peer Mentoring and Development of Student Agency	共著		2020年8月	JALT Postconference Publication - Issue 2019. 1; August 2020 https://doi.org/10.37546/JALTPCP2019	本研究は英米語学科とコミュニケーション学科 (グローバル領域) で行ったピア・メンタリングの実践において、メンターの自主性の発達を明らかにしようとした。特に下級生を導くのに、メンターを務めた学生がそれまでの自分の経験をどのように活かして自主性を発揮したのかに焦点をあて、メンターへのインタビューと下級生とのセッションの記録を、KJ法とKH Coderの共起ネットワークを用いて分析した。結果として、自主性に強く関連する刺激が8項目あることが認められ、自身の言語学習の知識や経験をメンター活動に活かすことで、メンター自身の自主性にプラスの影響があることが分かった。
6	辞書・翻訳書等の刊行物		英語科教育法 I～IVの再考：英語教員養成科目群としての統合を目指して	共著		2021年3月	教職実践研究 常磐大学 教職センター 紀要 ISSN 2432-8693 第5号	本学の英語科教育法 I～IVを一つの統合された英語教員養成科目群ととらえ、改善を目指すものである。文部科学省から提示された、将来の中・高等学校における英語教育を担う教員養成を目的とした外国語 (英語) コアカリキュラムで効果的に教員養成を行うためには、これまで担当者が個別に提供していた英語科教育法 I～IVを統合した科目群としてとらえ、共通の指導法で提供することを主張した。統合するにあたり、CLIL、基本動作のトレーニング、J-POSTL の導入を検討、実践志向モデル (Practice Oriented Model) を提案した。
			Designing a Practical Team-teaching Training Program for Incoming Exchange Students and Students Taking English Education Courses	共著		2022年3月	教職実践研究 常磐大学 教職センター 第6号	平成29年に公表された教職課程コアカリキュラムは、コミュニケーション重視の英語教育の実現を可能とする英語教師の養成を目指すものである。中学校・高等学校でそのような英語授業を展開する際、英語母語話者 (ALT) とのチームティーチングを効果的に実践することは、英語教師にとって重要なスキルの一つである。本学の英語教職課程で、本学学生と将来日本でALTとして教育に従事することを希望する派遣留学生が、それぞれ日本人英語教員とALTとして効果的にコミュニケーションを図り、言語活動の計画、レッスンの実施を模擬体験できるプログラムの構築を試みた。

7	報告書・会報等	刊行した辞書・翻訳書等	Introducing Research and Data in Psychology: A Guide to Methods and Analysis (Ann Searle)	共訳		2004年	新耀社	心理学の調査研究をどのように進めるかを分かりやすく解説している概説書である。英語教育の論文は心理学のマニュアルに従った執筆をすることも多いため、心理学専攻の学生のみならず、英語教育やほかの専攻の学生にも役立つことが期待される。(宮本聡介)
		掲載された報告書・会報等	人間科学部紀要 人間科学研究ノート「小学校における英語教科化の可能性」	共著		2008年	常磐大学 人間科学部紀要 第26巻, 第2号	担当するセクションで、英語が必修科目となることを踏まえた解決すべき問題点に焦点を当て、例えば、文字の導入について、文字とつづりの関連付けや発音について提言を行った。
			常磐国際紀要 研究ノート 「日本人学生とアメリカ人留学生による英語を介した共同プログラムに関する報告」			2013年	常磐国際紀要 第17号	常磐大学の日本人学生とアメリカ人留学生による共2つの共同プログラムDrop-in LabとEnglish Smoothie (水戸市国際交流センターでの会話活動) の実践の報告を行った。
8	国内学会発表(口頭発表等)		常磐国際紀要 第18号 「大学での新入生支援を目的としたピア・メンター活動」			2014年3月	常磐国際紀要 第18号	常磐大学国際学部英米語学科で行ったピアサポーターの実践の報告を行った。英語学習のサポートを目的として大学生が新入生の学習についてサポートをするうえでの留意点, 利点についてを実践をもとに紹介した。
		国内学会での発表(ポスター等含む)	Discourse Managementに影響を与える社会言語的要因について(発表言語: 日本語)	単独		1995年8月	関東甲信越英語教育学会第16回神奈川研究大会	canale(1983)が提唱する、コミュニケーション能力の4要素の中でも、社会言語的能力と談話的能力の関係に焦点を当て、会話例と談話のtranscriptsを検討し、英語を外国語として使用する日本人にとっての適切な英語使用と談話を能動的に展開させることの重要性を議論した。
			談話管理: 社会言語的能力の育成をめざして	単独		1996年2月	第15回英語教育合同論文発表会 (ICET)	英語学習者の社会言語的意識と外国語コミュニケーションに活発に参加する態度を育成することを目指し、談話を自らマネジメントする能力を養う英語教育を提唱することを目的とし、行った修士論文での研究をもとに発表を行った。
			談話展開に関する一考察—社会言語学的観点からの日米比較—(発表言語: 日本語)	単独		1996年2月	国際コミュニケーション英語研究所 (IRICE) 第54回月例研究会	英語母国語話者と日本人英語学習者を対象に実施したテスト形式のアンケート調査の結果を談話展開への社会的地位の影響、依頼や招待を拒否・辞退するときの謝罪、などの観点から分析し、報告した。アンケートは、与えられた状況下で英語母国語話者と日本人英語学習者がどのように談話を展開させるかについて差異や共通点を調査し、日本の英語教育における社会言語的能力の談話レベルでの育成に役立てることを目的とし考案、実施した。

			Facilitating Learner Autonomy In a College Class (発表言語：英語)	単独		1998年10月	全国語学教育学会 (JALT) 茨城支部会	The presenter outlined a course she taught in English wherein she successfully encouraged her first year university students to raise their hands and share their ideas and opinions in either English or Japanese during whole class activities. Students were also asked to negotiate and select areas of interest in the course and at the end, to suggest a method of evaluation. Participants were asked to discuss the ideas raised in this presentation and share their own ideas and experiences.
			Reflection Diary: Knowing Your Students Better (発表言語：英語)	単独		1999年10月	全国語学教育学会 (JALT) 茨城支部会	The presenter introduced her practice of using reflection diaries in her general English courses.
			Students' English Ability and Mental Health in Short-term Oversea Program (発表言語：英語)	単独		2003年10月	E S B A T	The presenter shows the result of an oversea program of Tokiwa University. 88% of participants in this program improved their English abilities, especially listening ability. According to GHQ (General Health Questionnaire), some of the students got stress at the middle of the program. However, most of the students did not feel strong stress even though they are not experienced students in a foreign country.
9	国際学会発表 (口頭発表等)		Toward Selecting the Right CALL for ALL: Effective Placement Testing (発表言語：英語)	単独		2003年10月	J A L T C A L L 2003	Making a good test is not easy, as this presentation of an operational, college, college-wide placement test shows. Theoretical considerations suggest how test items can be written and refined, but a disturbing finding was that nearly half of proposed test items were either confusing or even counterproductive. A useful tool for test analysis is available on a CD-ROM included in a recently published book on language testing.

		国際学会での発表(ポスター等含む)	Reflection Diary: Knowing Your Students Better ポスターセッション (発表言語: 英語)	単独		2000年11月	JALT2000 (全国語学教育学会年次大会)	The presenter introduced her practice of using reflection diaries in her general English courses. This practice raises the students' consciousness to the necessity of actively participation during class time and offers the teacher valuable information such as students' learning difficulties, impressino of the activities, etc. The reflection diary is a useful way to focus on and know individual learners better, unlike standardized questionnaires. Participants of this presentation were encouraged to discuss the possibility of using reflection diaries in their own classrooms.
			Students Helping Students: Peer Mentoring	共同・代表		2014年11月	JALT2014 (全国語学教育学会年次大会)	This presentation describes a 2-year peer mentoring project in the English department at a private university in Japan. The purpose of this project is to support students during their first year of university life to reduce attrition, assist with English language learning, and increase their level of involvement in university life. There will be a discussion of data collected from session reports, survey instruments, and follow-up interview.
10	演奏会・展覧会等での発表		Peer-Mentoring and Development of Student Agency	共同		2019年11月	全国語学教育学会 (JALT) 第45回年次国際大会教材展示会 (名古屋)	本学における学習者が学習者をサポートするピア・メンタリングの実践において、メンターの自主性の発達に焦点を当てた調査を実施した。その結果、自身の言語学習の知識や経験をメンター活動に活かすことで、メンター自身の自主性に影響があることが分かった。
11	招待講演・基調講演	演奏会・展覧会での発表						
12	受賞(学術賞等)	担当した招待・基調講演						
		学術研究に対する表彰の名称						

番号	研究活動項目								
13	科学研究費採択	補足	助成を受けた研究等の名称	代表, 分担等の別	種類	採択年度	交付・受入元	交付・受入額	概要
14	競争的研究助成費獲得(科研費を除く)	獲得した科学研究費の名称							
15	共同研究・受託研究受入れ	獲得した科研費以外の競争的研究助成の名称							

16	奨学・指定寄付金受入れ	共同研究等の名称							
17	学内課題研究(共同研究)	奨学、指定寄付の名称							
2.		課題研究(共同研究)の名称	「国語科授業の各学年週1時間増加を伴う水戸市幼・小・中英会話教育特区」研究による英語教科化の可能性の探求	分担	—	2005年～2008年	—	2,150,000円	国語教育の強化を前提にした英語の教科化への道程を観察し、時には助言・参加をして、新しいカリキュラム作成の一助となることを志向する。またこれによって本学の存在意義を地域社会に深く認識させ、英米語学科の学生ばかりでなく、他学部や短大の学生も本学学生ボランティアとして活動に参加する道を拓き、同時に優れた学生が入学するようにしたい。
3.			経営学科におけるプレイスメント・テストの有効性：語彙テストとCASECの比較から	分担	—	2008年	—	624,000円	常磐大学国際学部経営学科のプレイスメント・テストとして、語彙テストとCASECのどちらが有効かについて検討することにより、今後の国際学部経営学科におけるプレイスメント・テストやクラス分けのあり方を探索することを達成するために研究を行った。
			英語母語話者留学生と日本人学生の協学実践プログラムの開発とその教育的効果について	分担	—	2009年～2012年	—	3,038,000円	本学の学生と英語教師を目指す英語母語話者留学生を対象とした、TT (Team Teaching)の実践活動を通して英語教授スキルおよび英語コミュニケーション力の伸長を目指すプログラムを開発し、その効果について検証する
18	学内課題研究(各個研究)		ピア・メンター活動の実践と支援システム構築への取り組み—学習者要因に焦点を当てて—	代表	—	2018年	—	981,000円	これまで行ってきた学生が学生をサポートするピア・メンター活動のシステムをより系統的なものとして確立するとともに、学生の英語学習者としての自律性の育成を学習者要因の観点から明らかにするものであった。本研究で取り組んだピア・メンター・システムは国際交流語学学習センターで提供するDrop-in Labとの連携を視野に入れるとともに、英語学習サポートと留学サポートへの応用を全体の構想とした。結果の一部を発表するため、全国英語教育学会全国国際大会(JALT 2019)に応募済み。採択結果は5月初旬に出る予定。

	課題研究(各個研究)の名称	英語毒界の授業における学習日記の持つ可能性	代表・単独	—	2000年	—	263,000円	英語Ⅱ (Reading Skills)の授業において、学習日記を通し、学習者は自身の英語読解について深く考え、自立した読み手となっていくことが期待される。
19	知的財産(特許、実用新案等出願数)	海外研修Ⅰにおける学生の異文化への反応について	代表・単独		2002年	—	221,000円	国際学部で実施される「海外研修Ⅰ」で、学生がどのように異文化に反応するのか、特に言語面と文化面についての観点から調査を行う。